

第3回 模擬試験 答案用紙

工業簿記

問1 (単位：千円)

完成品総合原価		月末仕掛品原価	
---------	--	---------	--

問2 (単位：千円)

	完成品原価	月末仕掛品原価	標準原価差異
正常仕損費を含まない原価標準で良品の原価を計算する場合			( )
正常仕損費を含む原価標準で良品の原価を計算する場合			( )

問3 (単位：千円)

標準原価差異の分析		正常仕損費を含まない 原価標準で良品の原価 を計算する場合	正常仕損費を含む原価 標準で良品の原価を計 算する場合
直接材料費差異 (X材料)	総 差 異	( )	( )
	価 格 差 異	( )	( )
	消費量差異	( )	( )
直接材料費差異 (Y材料)	総 差 異	( )	( )
	価 格 差 異	( )	( )
	消費量差異	( )	( )
直接労務費差異	総 差 異	( )	( )
	賃 率 差 異	( )	( )
	時 間 差 異	( )	( )
製造間接費差異	総 差 異	( )	( )
	予 算 差 異	( )	( )
	能 率 差 異	( )	( )
	操業度差異	( )	( )

問4 (単位：千円)

	仕損関連の差異	仕損無関連の差異
直接材料消費量差異 (X材料)	( )	( )
直接材料消費量差異 (Y材料)	( )	( )
直接労働時間差異	( )	( )
製造間接費能率差異	( )	( )
合 計	( )	( )

## 原 価 計 算

問 1

事業部別管理可能投下資本利益率（ROI）：

関西事業部＝ %、関東事業部＝ %

問 2

関東事業部の税引前管理可能残余利益（RI）＝ 円

問 3

投資案 Z を採用した場合の管理可能投下資本利益率は  % となり、採用前の管理可能投下資本利益率よりも  % 悪化する。また、投資案 Z を採用した場合の税引前管理可能残余利益は、採用前の税引前管理可能残余利益より  円  $\left\{ \begin{array}{l} \text{増加} \\ \text{減少} \end{array} \right\}$  する。

したがって、管理可能投下資本利益率を事業部長の業績測定の指標とした場合、この投資案 Z は採用すべきではない。逆に、税引前管理可能残余利益を事業部長の業績測定の指標とした場合、こ

の投資案 Z は採用すべきで  $\left\{ \begin{array}{l} \text{ある。} \\ \text{ない。} \end{array} \right\}$

なお、利益の増大という全社的な観点からは、この投資案 Z は採用すべきで  $\left\{ \begin{array}{l} \text{ある。} \\ \text{ない。} \end{array} \right\}$

（注） $\{ \quad \}$  内の不要な文字を二重線で消しなさい。

第4回 模擬試験 答案用紙

工業簿記

		金 額
(1)	原料Y当月購入単価	千円
(2)	原料X当月消費額	千円
(3)	第1工程加工費配賦額	千円
(4)	第2工程加工費実際発生額	千円
(5)	第1工程完成品原価（原料費）	千円
	第1工程完成品原価（加工費）	千円
(6)	第2工程月初仕掛品原価（前工程費）	千円
	第2工程月初仕掛品原価（加工費）	千円
(7)	第2工程完成品原価（原料費）	千円
	第2工程完成品原価（加工費）	千円

原 価 計 算

問1

(単位：千円)

	製品 $\alpha$	製品 $\beta$	合 計
売 上 高	( )	( )	( )
変 動 費			
製 造 原 価	( )	( )	( )
販 売 費	( )	( )	( )
計	( )	( )	( )
貢 献 利 益	( )	( )	( )
個別自由裁量製造固定費	( )	( )	( )
管理可能利益	( )	( )	( )
個別拘束製造固定費	( )	( )	( )
製品貢献利益	( )	( )	( )
共 通 固 定 費			
拘 束 製 造 固 定 費			( )
自由裁量販売・一般管理固定費			( )
拘束販売・一般管理固定費			( )
計			( )
営 業 利 益			( )

## 問2

売 上 高	標準変動製造原価	標準変動販売費	実 際 貢 献 利 益
千円	千円	千円	千円

## 問3

差異分析表（A）

（単位：千円）

	製 品 $\alpha$	製 品 $\beta$	合 計
予 算 営 業 利 益	—	—	135,360
販 売 価 格 差 異	( )	( )	( )
販 売 数 量 差 異	( )	( )	( )
変 動 費 差 異	( )	( )	( )
固 定 費 差 異	—	—	( )
実 際 営 業 利 益	—	—	146,400

差異分析表（B） 販売数量差異の分析

（単位：千円）

	市場総需要量差異	市場占拠率差異	合 計
製 品 $\alpha$	( )	( )	( )
製 品 $\beta$	( )	( )	( )

差異分析表（C） 変動費差異の分析

（単位：千円）

	製 品 $\alpha$	製 品 $\beta$	合 計
直 接 材 料 費 差 異	( )	( )	( )
直 接 労 務 費 差 異	( )	( )	( )
変動製造間接費差異	( )	( )	( )
変 動 販 売 費 差 異	( )	( )	( )
合 計	( )	( )	( )

（注）各差異分析表の（ ）内には、不利差異であれば「U」、有利差異であれば「F」と記入しなさい。なお、差異が0の場合は「—」と記入すればよい。

## 問4

①		②		③		④		⑤		⑥	
---	--	---	--	---	--	---	--	---	--	---	--